

第一回總會記錄要目

總會禮拜	一頁上
代議員減數ノ理由説明	一頁下
議員氏名點呼	二頁上
教團創立經過報告	三頁上
教團總務部長鈴木氏ノ挨拶	三頁下
機構對策委員ノ報告	四頁下
機構第一及第二案	六頁上
第一案修正案ノ提出	六頁下
監督選舉	八頁上
人事委員ノ選舉	十頁上
各部々長ノ選舉	十頁下
維持財團理事並ニ監事ノ選任	十一頁上
常置委員ノ選舉	十一頁上

BX8750

N451N/455

1941

copy 1

Asian

Japan

Case

參與ノ選舉.....	十一頁下
會則成文委員.....	十一頁下
會計審査委員及懲戒委員.....	十二頁上
監督ノ手當.....	十二頁上
閉會式.....	十二頁下

# 日本基督教團第六部第一回總會記錄

日時、昭和十六年十月卅一日(金)午前九時

場所、東京市淀橋區柏木四ノ九四四

淀橋聖教會會堂

## 第一日 (第一回)

### ○總會禮拜

司會者 山崎 亭治

一、一同起立國歌二唱

一、宮城遙拜

一、皇軍將兵及戰沒傷者並ニ其家族ノ爲默禱

一、聖 歌 第三十番

一、詩篇交讀 第九十二篇

一、祈 禱 米田 委員

一、聖書朗讀 羅十二章 伊藤代議員

一、說 教 腓三〇十三、十四 小原 委員

(要旨)過去ヲ忘レ——前ヲ望ミ——前進セン

一、聖 歌 第一八八番

一、祈 禱 一宮代議員

一、頌榮及祝禱

### ○總會常置委員挨拶・

川端代議員常置委員ヲ代表シ挨拶ノ辭ヲ述ベ引續キ

座長ニ推サル

○議長選舉ヲ議場ニ諮ル、座長指名ノ聲アリ

川端座長車田委員長ヲ議長ニ指名

○議長着席 車田委員長議長席ニ着ク

○書記副議長及記錄署名捺印者ノ選舉。議長指名ノ聲

アリ議長正書記蔦田二雄、副書記板垣代議員ヲ指名

副議長ハ小原委員ヲ指名シ、記錄署名捺印者トシテ

山崎及安倍兩代議員指名

○次ニ總會々計選舉ノ儀ヲ諮リシニ議長指名ノ聲アリ

シガ副議長ニ指名ヲ命ジ小原副議長ハ總會々計ニ蔦

田、川端兩代議員ヲ指名ス

○代議員點呼ニ先立チ議長副議長ヲシテ代議員數ノ減

數ニ關シテ説明ヲ述ベシム

○小原副議長議員招集狀ヲ朗讀シテ之ニ就キ説明ヲナ

シ、九月十八日文部省ヨリ減員セヨトノ事デ時局止

ムヲ得ザル事トシ常置委員會ヲ開キ議員數ノ五分ノ三ノ三十名トスル事ニ定メタル事ヲ述ベ之ヲ承認セラレン事ヲ求ム、一同賛成

○議員點呼。本部書記安倍代議員之ニ當ル

甲種代議員

米田 豊 小原十三司 菅野 銳 車田 秋次

伊藤 馨 山崎 亭治 安倍 豊造 小出 朋治

奥 國二 清水良太郎 泉田 精一 蔦田 二雄

一宮 政吉 高橋 俊三 吉間 磯吉 中島 代作

古清水萬太郎 立石卯一郎

乙種代議員

佐々木兵吉(東北) 板垣 賛造(東京)

川端京五郎(東京) 菅野 利雄(東京)

草野 舜介(東京) 白根 英治(東京)

原 喜宇次(東海) 田主 金治(近畿)

西山 五一(臺灣) 植田 恭美(四國)

布山丑太郎(東京) 岡 伊八(朝鮮)

以上三十名ノ中廿八名出席

缺席者ハ

甲種代議員 菅野 銳

乙種代議員 布山丑太郎 二名

○茲ニ總會ノ成立ヲ見、議長日本基督教團第六部第一回總會成立ヲ宣シ議事假日程ノ承認ヲ求メ一同承認議事ニ入ル

○日本基督教團創立經過報告ニ先立チ委員會ヲ代表シ

米田委員ヨリ委員滿期完了ニ關スル挨拶ノ辭アリ

(要旨)『感謝―述懷―今後ノ彌愈レル團結ノ要望』

一宮代議員 信徒及教役者ヲ代表シテ伊藤代議員ニ

是等ノ辭ニ對シ答辭ヲ述ベラレタシト欲ム

伊藤代議員 我等ハ三委員ノ故ニ感謝デ一杯デアル

アレキシングダーガ嘗テ「支配者ノ悲哀」ト言フ事

ヲ申シタ事ガアル―善政ヲ布イテモ當然ト言ハ

レ、故障アラバ苦情ヲ受ケル。我等ノ側ニ於テモ

屢々協力ト服從ガ缺ケ勝チナリシヲ申譯ナク思フ

ソレニモ不拘三人ノ委員ガ今日迄勤メテ頂キマシ

タ事ヲ深謝スル。如何ニモアレ多年ノ經驗ニ立脚

シ新制度ニ對シテモ愈々御協力ヲ乞ヒタク存ジマ

ス之ヲ以テ答辭及御禮ノ辭トス

○次ニ議長ノ命ニ依リ安倍代議員ヨリ今日迄ノ教團創立經過報告アリ

○安倍代議員 既ニ靈光ニ發表シアル故ニ其必要ハナ

ケレドモ一言スレバ此非常時局ニ際シ新教各派ハ合同スル事ハ必要ナ事デアル。夫ガ爲ニ創立委員ヲ設ケ本年七月ニハ代議員ヲ選ビ創立總會ヲ開キ萬事順調急調ニ進行シテ教團ガ成立シタ。當部ヨリハ車田參與、小原國外傳道局長、其他參事等相等選バレ着々事ハ進ンデ居ル。會則モ文部省トノ交渉ニ於テ第一ニ事務官次ニ最高幹部トノ交渉モ終リ幾分當局ヨリノ希望其他不審ノ點モアリ、四名ノ交渉員ヲ出シ當局ト目下交渉中ニテ是サヘ終レバ何時ニテモ認可可能ノ處マデ來テ居ル

○議事日程ニヨリ合同後ニ於ケル第六部ノ機構研究ノ問題ニ移ル

議長 機構研究對策委員ノ報告提出ノ前ニ各自ノ意向ヲ知ル爲懇談シテハ如何

高橋代議員 懇談希望

懇談中小出、田主、米田、一宮、中島、蔦田、奥、立石、伊藤等ノ諸代議員ノ意見發表、懇談アリ、主ニ今後ノ機構ニ於テ中央及地方トノ聯絡提携ノ完フサル、様ニトノ要望アリ

○日本基督教團總務局長鈴木浩二氏來場

右懇談中ニ鈴木氏新教團ヲ代表シテ來場サレ、小原代議員起チテ同氏ヲ紹介サレ「御多忙中御來訪下サレシ事ヲ光榮ニ思フ。尙今後トモ種々御厄介ニナラネバナラヌ事故一同ニ代リテ宜シク願フ」ト歡迎ノ辭ヲ述ブ

○鈴木總務局長挨拶ノ辭

『本日此處ニ於テ日本基督教團第六部ノ總會アル事ヲ聞キ教團ヲ代表シテ御伺シタ譯デテリマス、而シテ一言ノ挨拶ヲ申述べ併セテ皆様御一同ニ御目ニ懸ル機會ヲ與ヘラレ光榮ニ存ジマス。御承知ノ様ニ教團發足ヨリ早四ヶ月ニナリマスガ不幸ニシテ未ダニ文部省ヨリ認可ヲ得ズニ居リマス。各様ナ不便ヲ蒙リ又「デマ」モ飛ンデ居リ迷惑ニ思フ事モ度々アリマス。然シ此四ヶ月ノ經驗ニ由リ明カニ申上ゲ得ル事ハ「内部的ニハ一ニ成ツタ」トノ意識ノ下ニ各派ガ一致シ熱心ニ協力シテ居ル事ハ事實デ、此點報告シ得ル次第デアリマス。私モ初メハ杞憂ヲ抱イタ一人デアリマシタガコチラニ來テ三ヶ月ノ間種々ノ會合ニ出テ其氣持ヨリシテ必ズ成功スル教團ナリトノ確

信ヲ有シ得ルニ到リマシタ

新教團ハ建築ノ設計圖ノ様ナモノデアリマシテ之ニ循テ家ヲ建上ゲテ行カネバナヲヌコト故我等ハ金銀寶石等ノ様ニ出來ルダケ立派ナ火ニ耐フルモノヲ建上ゲル責任ガアリマス

第六部ハ此教團ノ一部デ今日迄誠ニ忠實ニ御協力下サリ私共ハ衷心ニ感謝シテ居リマス。尙是ヨリ先キ立派ナ教團ヲ建上ゲル爲眞ニ恥シクナイモノヲ建テネバナリマセンガ當第六部ハ信仰ノ熱心傳道上ニ熱烈ナルハ誰モ認ムル處デアリマス

何卒此特色ヲ以テ新教團ニ貢獻シ新教團ヲシテ熱心ニ祈リ、信ジ、傳道スルモノトスル爲御盡力アラシム事ヲ願フモノデアリマス

他ノ教派ニ於エモ夫々ノ特色ヲ以テ立派ナ新教團ヲ建上ゲル爲ニ貢獻セラル、事デアリマスガ之ハ單ニ日本ノ新教團ノ爲計リデナク世界ノ爲ニ意義アルコト、惟ヒマス。斯カル時代ノ唯中ニ新教團ガ出來タノハ何カ其處ニ深キ聖旨アルコトヲ信ジテ疑ハザルモノデアリマス。必ズ將來此意義ヲ知り感謝スル日ノアラン事ヲ信ズルモノデアリマス。サレバ互ニ

各々ノ置カレタル立場ニ於テ國家ニ盡忠報國スルコトヲ大ニ心ガクベキダト思ヒマス。

私ハ貴部ノ總會ニ於テ善キ相談ガ爲サレ特色ヲ發揮セラル、様又新教團ノ善キ力トナツテ頂ク様祈ツテ止マナイノデアリマス

教團ヲ代表シテ感謝ヤラ御願ヤラヲ申上ゲル次第デアリマス。今後トモ尙教團ノバツクトシテ御助ケ下サル様衷心ヨリ重ネテ御願シテ置キマス』(拍手)  
○議長ノ答辭

御來席ヲ感謝シ茲ニ愈々相互ノ關係ヲ密ニセラレシコトヲ謝ス

名譽代議員ノ席ヲ提供シテハ如何ト議場ニ諮リ一同拍手賛成

○引續キ議長一先ヅ懇談ヲ打切り機構委員ノ報告ヲ求ム

山崎代議員起チテ報告文朗讀

合同後ニ於ケル我教會ノ機構對策委員報告

一、委員ノ會合

昭和十六年十月九日午後二時第一回委員會ヲ淀橋聖教會ニ開ク。小原、土屋、板垣、菅野利雄、山



崎ノ五人出席ス。各自端的ニ機構ノ構成ニ就キ意見ノ交換ヲナセシモ結論ニ至ラズ。十月十六日午後一時半第二回ノ委員會ヲ開ク。小原、一宮、葛田、板垣、土屋、山崎ノ六委員出席、之ニ日本基督敎團ト連絡ヲ取ル爲「オブザーバー」トシテ安倍豊造氏ヲ加フ

二、先ヅ第一ニ本委員會ノ立場ヲ明カニセシガ、要スルニ日本基督敎團第六部トシテ持つベキ機構ヲ研究シテ其結果ヲ總會ニ進言若クハ案トシテ提出スルコトヲセリ

三、本委員會ノ第一方針トシテ日本聖敎會々則ヲ日本基督敎團規則ト對照シテ之ヲ修正セントセシモ短時間ニ之ヲ爲スヲ得ザルニ由リ必要アラバ來ルベキ總會ニ於テ特別委員ヲ擧ゲテ之ヲ托スルコトヲセリ

四、本委員會全體トシテ略意見ノ一致シタル事ハ今回ノ定時總會ニ於テハ會則第三十條以下卅二條迄ハコレヲ適用セザルコト

第二、會則第三十六條ノ三局ヲ七局ニ増加シ、局ト稱スル事ハ敎團規則ト混同スル恐アルニヨリ部

ト言フ名稱ヲ用ヒ總務部、國內傳道部、國外傳道部、財務部、敎育部、人事部、出版部ノ七部トシ殊ニ人事事務ハ慎重ニ事ヲ處理スル必要アルヲ以テ特ニ其機構ニ充分ノ考慮ヲ用ユル事トシ、牧師ノ任命ニ就テハ萬遺漏ナキヲ期スルコト

五、安倍氏ハ日本聖敎會々則ノ各條ニ就テ改訂スベキ點ヲ指摘セシガ其要點左ノ如シ

(イ)未ダ公式ノ決定ニ至ラザルモ從來ノ監督ヲ敎會長ト稱スル必要アルベシ

(ロ)敎會長ヲ撰定スル場合ニハ先ヅ理事十五名位(此中ニハ平信徒ノ長老ヲモ含ム)ヲ選舉シ之ヲ詮衡委員トシテ三名ノ候補者ヲ擧ゲ更ニ總會ヲシテ其中ヨリ一人ノ敎會長ヲ選舉セシム

(ハ)擧ゲラレタル理事十五名ハ從來ノ總會常置委員及參與ノ職能ヲ兼ヌルコト、シ敎務委員會(三十六條ノ七部長會議)ニテ決定シ難キ重要事項ヲ決定スルコト

(ニ)三十六條ノ行政部門ニ在ル七部長ヲ決定スル場合ニハ理事會ニ於テ上記七名ノ部長ヲ詮衡シ總會ノ承認ヲ經テ敎會長之ヲ任命スル事

車田議長 機構ノ事ニツキテ懇談シテハ如何、一同賛

成懇談ニ移ル

安倍代議員 合同ニ臨ンデモ從來ノ各教團ノ傳統、特

色、歴史等ヲ尊重スルトノ文部省ノ意向ヲ語リ合同

後ニハ在來ノ我等ノ名稱稱ヘバ監督ヲ會長ト呼ブガ

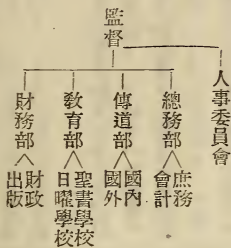
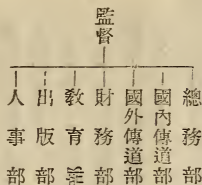
如キ事ニ多少ノ變更ヲ見ルノ止ムナキ事等ヲ語ル

米田代議員ハ機構委員ノ提出セル機構第一案ニ對シテ

曩キニ參與會ニモ提出セル第二案ヲ提出ス

## 第一案

## 第二案



一宮代議員 監督ト各部(局)トノ間ノ聯絡機關トシテ

書記官長ノ如キ者ヲ必要トスル旨及第二案ノ機構ニ  
由ラズ第一案ノ七部制ヲ主張シ國外、出版、兩部ノ

意義ヲ述ブ

議長 十二時ニ至リ一先懇談ヲ打切りテハ如何ト提議

シ、一同賛成

鈴木總務局長退場ノ後

聖歌二〇七番第一及四節ヲ歌ヒ、高橋、岡兩代議員

ノ祈禱ヲ以テ一先ヅ閉會

第一日 (第二回) 午後一時半開會

聖歌第七九番ヲ歌ヒ立石、中島、兩代議員祈禱ヲ以

テ議事ヲ進ム

議長 開會ヲ宣シ、午前議事録朗讀ヲ要スルヤヲ問フ

省略ノ聲アリ、引續キ機構問題ニ關スル懇談繼續。

伊藤、薦田、一宮、山崎、安倍、古清水、中島、立

石、小原ノ諸代議員ノ意見陳述アリ、主ニ副監督ヲ

立ツル要不要ノ問題ヲ語ル

國外傳道部及兒童傳道部ヲ夫々同列ノ部トシテ新設

サレタシトノ希望出デタリシガ結局小原代議員ノ第

一及第二案ノ主旨折衷ニ由ル第一案ノ修正サレタル

機構提案サル

議長 懇談ヲ打切り第一案ノ修正案ヲ議題トスル事ヲ

承認スルヤ否ヤヲ議場ニ問ヒ一同舉手賛成



昭和十七年二月十日印刷  
昭和十七年二月十八日發行

東京市豐島區椎名町四ノ二〇六九

編輯兼發行人 山崎亭治

東京市淀橋區柏木二ノ二七五

印刷所 星光舎印刷所

東京市淀橋區柏木四ノ九四四

發行所 日本基督教團第六部本部

振替東京七六〇二八番

# 日本社會運動史 目次

第一部 前期	一—三
--------	-----

前言	三
----	---

初期——發生時代	五
----------	---

勞働組合期成會——社會主義研究會——治安警察法制定——社會民主黨——

平民社——日本社會黨——分裂——赤旗事件——大逆事件——片山潛

中期——沈潜時代	三〇
----------	----

賣文社——友愛會の創立

後期——勃興時代	三六
----------	----

勞働組合の組織的發展——社會主義の再興——デモクラシー思潮——マルキシ

ズムの擡頭——社會主義同盟——「アナ」と「ボル」——全國勞働組合總聯合創立

大會——曉民共產黨事件——國家主義運動の勃興

## 第二部 近 期…………… 七〇— 八六

前 言…………… 五

第一次日本共產黨事件…………… 三二

一味の檢舉——組織過程——佐野學——方向轉換

第一時共產黨創立前後の共產主義運動…………… 六六

シベリヤ出兵問題——ロシヤ飢饉救済運動——水平社運動——早大軍事研究團

騒動——三法案反對運動

關東大震災…………… 九

勞働總同盟の方向轉換…………… 八一

普選運動…………… 八三

政治研究會

總同盟の分裂及び評議會の創立…………… 八五

無產政黨組織運動…………… 八九

學生共產主義運動の概要…………… 九三

國家主義者との衝突……………九

第二次日本共產黨事件……………一〇〇

組織過程——黨フラクシオンと細胞——共產黨運動の潜行的秘密化——三・一

五檢舉——三團體の解散命令——血に彩られた中間檢舉——三・一五檢舉を追

れた巨頭の暗躍——第二次日本共產黨暗躍の跡——巨頭の檢舉——黨活動資金

は何處から出たか？——クートベ——留學生

國家主義運動の墮落期……………一〇五

再建共產黨事件……………一〇八

再建共產黨の特色——組織過程——「武裝蜂起」の指令動いて帝都の警官廿五名

死傷——黨外側部隊シンパサイザー——再建黨巨頭の檢舉

國家主義運動の復活擡頭……………一八九

血盟暗殺團事件……………二〇七

組織過程——血盟團員略歴——井上準之助氏及び團琢磨氏の暗殺——一味の檢

舉——血盟團一味暗躍の一——血盟團一味の暗躍の二——百餘名の參考人

非常時共產黨事件……………二二三

## 査

と、それらの分擔を定め、更に實行日時、統制については、軍人側の實行日時は昭和七年五月十五日午後五時半、農民決死隊の變電所襲撃は同日午後七時となし、同日午後五時、第一班は九段靖國神社境内に、第二班は芝高輪泉岳寺に、第三班は新橋驛に、それら集合し、別動隊、農民決死隊は、各自分擔の場所に、所定の時刻に、一齊に豫定の計畫を決行することを誓つた。そして、軍人側は所期の目的達成後、全部警視廳を襲撃した上憲兵隊に自首することとし、それまでの統制については、海軍側は古賀中尉、陸軍側は池松が指揮者となること等、行動に關する細密な計畫を決定して會議を終つた。そして會議からの歸途古賀中尉は後藤園彦に農民決死隊の護身用の爲めの短刀七口と、西田税狙撃擔當者川崎長光の武器にピストル一挺、實彈六發を渡したのであつた。

西田税氏に對しては、別に古賀海軍中尉、橘孝三郎、後藤園彦等が協議した結果、西田氏は、從來同志として相提携して來たにも拘らず、今次の計畫を妨害せんとしてゐるから、この際彼を殺害する必要があるとなし、同志であり血盟團の殘黨である川崎長光をして、その任に當らせることになつたのであつた。





0 040 898 057 4

田所輝明編纂

ボケッ  
ク  
ス  
ト  
表  
紙  
装  
頁

定價金貳圓六十錢

此の際二萬部限り

特價金貳圓

送料  
十六錢

# 社會科學小辭典

增補訂正

社會科學の「小さな」大辭典。項目四千五百に亘る社會を科學的に認識するには如何しても社會科學によらねばならぬが、その正確明快な辭典は斷然本辭典を以て白眉とする。本辭典は項目の多數廣汎、説明の簡易明快、價格の低廉無比、體裁の優美高尚、實に十數圓の辭典より遙かに優ると云はれ、好評噴々數版を重ねたが、此度内容を社會の進展に應じて訂正し、二百の項目を増補して、價格を一段と引き下げ、眞に社會的大衆的字典として奉仕せんとしたものである。廣く諸君に推薦する。

大増補普及版出版

五色

- ▲說明——簡潔明快、而も興味多く説明して、整然と統一され最も使用に便利である。
- ▲項目——四千、人名七百、百餘年間の社會史年表等社會科學に關する一切を網羅す。
- ▲編輯——社會科學一切を完全周到に收め、殊に日本に關する事項が豊富である。
- ▲體裁——ボケット形清酒堅牢組版は六號活字二段組みア・イ・ウ・エ・オ順に配列す。
- ▲價格——千七百頁、二圓(一萬部限定後は定價)如何なる辭書よりも低廉である。

社會の發展と共に發展する本辭典を必備せよ!!!

白揚社

東京 振電  
神戶 電話  
田代 二二  
土田 五二  
町 四八  
二番 〇〇  
一ノ番 〇〇

Barcode 00402980574



めて積極的にして且つ眞摯なる點であり、更にその民性よりして實行力に富んでゐることである。今や、緬甸人は世界動亂を千載一遇の好機として、一氣に年來の宿望を達成し、その獨立を完遂せんと種々畫策しつゝあり、帝國が積極的支援と誘掖さへ惜しまなかつたならば、成功疑ひなき所まで來てゐるのである。

彼等は從來英國の武力に屈服したとは言つても、その懷柔策には斷じて乗らず、逆に英國の搾取政治に益々反感を募らせてゐる。嘗つて日露戦争が勃發した當時、緬甸人は皆、東洋の一小島帝國が又一つ白人の爪牙にかけられ、忽ち自分等と同じ悲慘な運命に陥るものと信じてゐた。然るに奚ぞ計らん、亞細亞人たる此の日本が當時世界最大の陸軍國を以て誇稱せる、大ロシアを屈服せしめたことは實に有り得べからざる一大驚異であつた。併し之よりして、白人には到底敵し得ずとする考へが覆へされ、彼等の衷に眠る民族的自覺を、強く覺醒せしめたのであつた。加之、緬甸には傑僧オツタマが居つた。彼は日本に亡命して長く大谷光瑞師の許に寄寓し、その間詳細に日本及び日本人を研究した。後、第一次歐洲大戰當初緬甸に歸り『日本』なる名著を公刊した。彼は日本が強大ロシアに大捷せる所以は、舉國一致協力せし團結力の賜であると喝破し、緬甸人の緬甸再建のためには、唯民族を擧る協力一致あるのみと強調警告したのである。偶々當時緬甸は祖國解放運動の機運が、澎湃と燃え上りつゝあつた秋であり、而も僧侶を極度に尊敬する緬甸である。この書が強大なる反響を及ぼしたこと

は理の當然で、幾何もなくオツタマ自ら獨立の實際運動に乗出すや、彼を中心として青年僧侶翕然と相集り、遂に『佛教青年會』が結成された。

佛教青年會は現在獨立を目途として活動しつゝある、各黨の核心的勢力をなすものであつて、緬甸民族運動の母體とも稱すべきものである。僧オツタマは昭和十四年九月、六十歳を一期として惜しくも長逝したが、その烈々たる遺志は朽ちず、農民及び學生群を率ゆるウ・ソーテンこそ、彼の遺鉢を繼ぐものである。また一方、青年僧侶の活動は實際運動の中樞指導力として、益々重きを加へつゝある。

由來、緬甸獨立運動の趨勢は、大體二箇に分けて見ることが出来る。その一は、既成政黨の合同により現親英内閣を倒し、統治法を改訂して合法的に獨立を獲得せんとするものである。これは一部不平政治家や野心家が、自己の爲めにせんと策謀するところで、獨立を表看板にして内閣を乗取り、自らの野望を遂げんとするものである。従つて、之を知る一般民衆を動かす力とはなつて居らない。

その二は、タケン本黨、緬甸自由聯盟、農民黨、聯合黨及び青年僧侶團の指導する、眞摯なる反英運動で、既成政黨者流に慊らぬ新進政治家及び思想家、宗教家達によつて支持せらるゝものである。彼等はいく民意を察し民心を捉へ、常に自ら身を挺して實際運動に没頭しつゝあつたのであるが、最近亞細亞及び歐洲情勢の急轉回に乗じ、頓に活潑なる動きを示しつゝある。

全緬甸青年僧侶層は夙くより國內統一を畫策し、昭和十四年以來屢々代表者大會を開催して、輿論